

[成果情報名] 固化セル成型培地を用いた若苗移植によるパンジーの開花促進技術

[要約] 288 穴サイズの固化セル成型培地へパンジー「LR オトノパープル」を 8 月上旬に播種し、8 月中旬の子葉展開時に 9 cm ポリポットへ移植すると、9 月上旬に本葉が 3 枚展開した慣行苗を移植するよりも栽培期間が 22 日短縮でき 10 月上旬に開花苗を出荷できる。

[キーワード] パンジー、開花促進、固化培地、若苗移植

[担当] 広島総研・農技セ・栽培技術研究部

[代表連絡先] 電話 082-429-3066

[区分] 近畿中国四国農業・花き

[分類] 技術・参考

[背景・ねらい]

パンジーでは、出荷量が少なく単価の高い 10 月上旬出荷の作型に適用できる育苗技術の開発が求められている。

近年開発された固化セル成型培地は崩壊しないことから、若苗移植が可能となる。そこで、固化セル成型培地を利用した移植時の葉齢がパンジーの開花および品質に及ぼす影響を検討し、10 月出荷作型への適用性を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 本技術では育苗用 288 穴固化セル成型培地に播種し、子葉展開時に移植する（図 1）。
2. 到花日数は、8 月 5 日播種で固化培地を利用した移植葉齢が子葉展開で最も短く、慣行の本葉 3 枚と比較して 22 日開花が促進される（表 1、図 2）。
3. 草丈、株幅および最大葉身長は、最も早く開花する移植葉齢が子葉展開であっても慣行とほとんど差がない（表 1）。
4. 固化セル成型培地へ播種し、子葉展開時に移植すると 8 月 20 日および 9 月 7 日播種でも 16~21 日の開花促進効果がみられる（データ省略）。

[成果の活用面・留意点]

1. 固化セル成型培地は熱融着性ポリエステル繊維を用いてピートモス：パーライト：バークキュライト＝3：1：1（容積比）で固化した培地（みのる産業(株)製、商品名：エクセルソイル）である。また、1セルあたりの培地価格は約 1.7 円（288 穴用）である。
2. 本成果は「LR オトノパープル」を用いて、播種後になりゆきの温度で育苗した結果である。
3. 播種後の灌水方法は、培地の乾燥と種子の流亡を防ぐためにミスト灌水（日中のみ 30 分間隔で 30 秒/回）で行う。

[具体的データ]



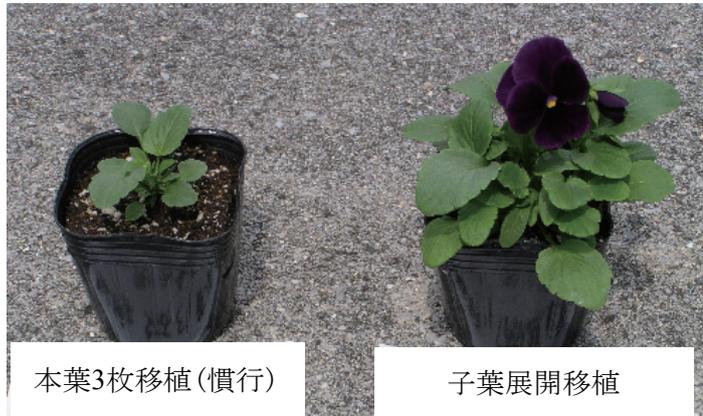
本葉3枚(慣行)



子葉展開

図1 移植時の固化セル成型苗と慣行苗の生育

注) 慣行はメトロミックス350を充填した288穴セル成型トレイに播種



本葉3枚移植(慣行)

子葉展開移植

図2 移植葉齢と播種59日後の生育

注) 播種日：2009年8月5日、品種：「LRオトノパープル」

表1 培地と移植葉齢がパンジーの生育および開花に及ぼす影響

培地	移植葉齢	移植日 (月/日)	開花日 ^z (月/日)	到花日数 ^y (日)	草丈 (cm)	株幅 (cm)	最大葉身長 (cm)
慣行	本葉3枚	9/ 9	10/25	81.3±1.2 ^x	11.8±0.3	18.0±0.3	5.2±0.1
固化	子葉展開	8/18	10/ 3	59.0±0.7	11.5±0.5	17.1±0.3	4.9±0.1
固化	本葉1枚	8/25	10/10	66.4±1.6	11.8±0.6	18.2±0.4	5.0±0.1
固化	本葉2枚	9/ 1	10/11	67.3±1.8	11.1±0.5	17.6±0.5	5.0±0.1
固化	本葉3枚	9/ 9	10/29	85.1±1.3	12.1±0.3	17.1±0.3	4.8±0.1

^z 第1花が開花した日を開花日として生育調査を行った ^y 播種から第1花が開花するまでの日数

^x 平均値±標準誤差(n=20)

注) 播種日および品種は図2に準じる。セル育苗中の施肥は播種16日後からN-P₂O₅-K₂O=10-4-8の2000倍液を7日毎に葉面散布した。播種13日後まで寒冷紗で被覆し、灌水方法はセル育苗中がミスト灌水で日中のみ30秒散布の30分間隔で、移植後は手灌水で毎朝1回行った。移植はピートモス：真砂土：パーライト：赤玉土を容積比で65：15：10：10に混合した培地を充填した9cmポリポットへ行った。基肥は培地 1L当たり肥効調節型肥料（マイクロロング70日タイプ：N-P₂O₅-K₂O=12-10-11）を2.2g施与した。

(原田秀人)

[その他]

研究課題名：固化セル成型培地を用いた若苗移植によるパンジーの開花促進技術の可能性調査

予算区分：単県

研究期間：2009年

研究担当者：原田秀人